

I 調査の概要

1 調査の目的

本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話を日常的に行うヤングケアラーの実態を把握するため、小学4年生から中学3年生及び高校生相当年齢の子どもたちを対象に実態調査を実施する。

また、この調査を通じて認知度の向上を図るとともに、子どもやその家族への必要な支援策や、支援体制の構築等を検討する。

2 調査対象

船橋市立学校及び特別支援学校の小学4年生～中学3年生、船橋市在住の高校生相当年齢の子ども

3 回収状況

対象	対象者数	回答数	回収率
小学生調査（4, 5, 6年生）	17,025人	11,342件	66.6%
中高生調査	32,530人	11,422件	35.1%
中学生（1, 2, 3年生）	15,668人	10,114件	64.6%
高校生相当（H16年4月2日～ H19年4月1日生まれ）	16,862人	1,279件	7.6%
学年・年齢回答なし	—	29件	—
合計	49,555人	22,764件	45.9%


4 調査方法

WEB上のアンケートフォームによる調査。市立小・中学校及び特別支援学校の児童生徒は、各学校を通じて、子どもに付与されている1人1台端末を用いて実施。高校生等は当該URL及び二次元コードが記載された案内を郵送で送付。

5 調査期間

令和4年5月6日から令和4年5月27日

6 調査結果の表示方法

- 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示している。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。
- 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがある。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法をいう。
- 調査結果を図表にて表示しているが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしている。（無回答を除く）
- 回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としている。